

- 国語科の授業のアイデアを広げたい!
- 具体的な実践事例を知りたい!
- 授業の導入に使える小話はないだろうか?

そんな先生方のために、秀学社国語科通信シリーズをスタートします。

和歌をどう読み味わったのか、 Class Notebookを使って 発表する

滋賀大学教育学部附属中学校

井上 哲志

今回は、動画をTeamsの掲示板機能を使って共有し、生徒の学習の振り返りに活用させる実践事例を紹介したが、今回は単元の学習過程においてICT機器を活用した例を紹介したいと考える。

まず初めに紹介するのは、「君待つとー万葉・古今・新古今」を教材に、アンソロジーの編集に取り組んだ単元である。アンソロジーは、教科書・百人一首所収の和歌から気に入った和歌一首と、それと趣旨の似た現代詩・歌詞を一〜二編を選ぶだけでなく、それらを合わせて紹介する文章を書くことを課した。

教科書所収の和歌については、修辞法を教える過程で内容をつかませたが、そこから抜けた和歌を取りあげ、読み味わう活動に取り組ませた。「味わう」活動なので、少人数の学習グループで意見交流しながら取り組ませたかったが、おからのコロナ第6波により、本校ではグループワークをストップしていたので、Web上でワークシートに書き込むことで意見交流をさせることを試みた。

実践事例Ⅱ(令和三年二月実施)

(1) 単元名 「アンソロジーを作ろう」過去と今をつなぐ」

(2) 教材 「君待つとー万葉・古今・新古今」(光村図書)

(3) 単元の流れ

① 言語活動のゴールを知る

② 和歌の修辞法を学ぶ

③ 和歌を味わう

④ アンソロジーを編集する

(4) ICT活用ポイント

・Class Notebookのcollaboration spaceに少人数学習グループの数だけ作業スペースを作り、ワークシートを画像貼り付けする。



生徒は自分のグループ番号の作業スペースに入り、自分の考えを書き込む。

書き込まれた仲間の意見は自分たちでまとめ、発表に備える。

教室のスクリンに各グループのワークシートを提示し、発表させる。

(5) 成果

スクリーンにワークシートが示され、それに基づく発表となるので、発表者を取り組みやすいのはもちろんのこと、聞き手も発表内容の全体像を意識して聞くことができた。

スクリーンに提示されたワークシートから、発表時には触れられなかった生徒の意見に注目し発問をするなど、本来だと埋もれていたはずの意見の発掘ができた。

作成したアンソロジー

孤独と自然

白鳥はかなしからずや空の青海のあそにも染まずたよふ

遊園 江戸香織

遊びにいってきませう

おもいでいって

立ち上りてい

せかいぜんぶをむこうにまわし

あの日、

しじみも、

すくじみも、

仲間だった。

(「すくじみ」の砂糖づけ)

良達法師

歌しき宿を立ち出でて眺むればいづこも同じ秋の夕暮れ

(まじりかのために、住まいを出て、あたりながめると、

と、同じようにわびしい秋の夕暮れである。)

(「後撰雑興」秋・三三三)

若山牧水

(「海」)

「別離」

注：このアンソロジー全体を通して、「自然」とは人間や人間社会以外の植物や動物などの生物を指すものと定義する。

また、大地・宇宙・水などの地球環境

(6) 課題

Class Notebook だけの使用は、課題の方が大きいように感じた。まず、生徒には自分の意見を同様のワークシートに記入してから取り組ませたが、学習グループのメンバーの意見を交流する手立てを準備していなかったため、意見を集約しづらかったことである。次に、授業用のパワーポイントの画面をそのまま貼り付けただけだったので、生徒たちの思考過程も分からず、教師の発問が和歌を「味わう」に資するものであったかどうか、不明瞭になった点である。

当たり前のことだが、用いるアプリケーションの機能に応じて適した学習活動を当てる必要がある。

各グループのワークシート

1班作業スペース

恋人が私を思う
気持ちだと
信じたい

あなたはもう来
ない(もう会え
ない)と言っ
ているようだ

私の恋が叶わ
ないことを告げ
ているように感じ
ます。

【その気配に】
私は自分の恋心の
大きさを今更思い
知らされたよう
でした。

あなたそのもの
のようで、とても恋
しく感じます。

君待つと我が恋ひ居れば我が屋戸の
すだれ動かし秋の風吹く

Q 空欄に適切な語句を当てはめて、
和歌を味わおう

あなたのおいでを待って私が恋しく思っ
ておりますと、

まるで、

私の懐い気持ち
を消し去る
ように

わたしを落ち葉
の如く
さらっていくよ
うに

期待を裏切る
ように

私の思いを無慈
悲に

私の心の中を見
透かしたかのよ
うに

額田王

我が家の戸口のすだれを動かして、秋の
風が吹いております。

その気配は、

【編集部がつばやき】 芥川龍之介 生誕130年

2022年は芥川龍之介の生誕130年の年です。35歳という若さでこの世を去った芥川ですが、後に妻となった文へこんなラブレターを送っていました。

……この頃ボクは文ちゃんがお菓子なら頭から食べてしまいたい位可愛い気がします。嘘じゃありません。文ちゃんがボクを愛してくれるよりか二倍も三倍もボクの方が愛している気がします。……

妻への強い慕情がうかがえます。「ぼんやりした不安」を遺書に挙げ、自殺した芥川。その本意に近づくことは難しく思えますが、このラブレターを読むと少しだけ彼を身近に感じます。生誕130年の今年を機に、芥川作品に触れてみてはいかがでしょうか。(編集部：大石) 参考：『文豪たちのラブレター』別冊宝島編集部 (宝島社)

秀学社 国語科 LINE公式アカウント

コクカフェ

▼役立つ情報を配信します。
ぜひご登録ください。

